

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話言語学			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	45 時間	単位数	3 単位
担当教員	高嶋 由布子	履修分類	専門科目	科目分類	言語

授業概要	手話言語学について学ぶ。 第二言語としての日本手話の「意識的学習」にも役立つ実践的な内容を中心とする。
到達目標	日本手話と日本語の対照分析を通して、二言語間の翻訳に際して理論的な説明ができるようになる。
授業内容(予定)	
1	手話言語学入門:言語の定義
2	手話音韻論①:手話の音素
3	手話音韻論②:手型の分類
4	手話音韻論③:位置について
5	形態論①:CLという現象
6	形態論②:語とは何か／非手指要素について
7	文法論①:品詞
8	文法論②:機能語／アスペクト
9	文法論③:形容詞
10	文法論④:動詞の分類
11	意味論①:否定
12	意味論②:発見構文
13	意味論③:使役構文と動詞連続
14	意味論④:目と頭のふるまいの意味
15	まとめとディスカッション
成績評価の方法	レポート、発表
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、課題・レポート提出(40%)、発表内容(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 感覚機能系障害研究部 任期付研究員、(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話言語学			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	高嶋 由布子	履修分類	専門科目	科目分類	言語

授業概要	1年次で学んだ手話言語学の知識をもとに、学生自身が感じた日本語との違いについて、発表とディスカッションを行い、二言語間の違いを言語学的に説明することを試みる。
到達目標	手話言語学の知識を利用した発表とディスカッションに参加することができる
授業内容(予定)	
1	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション①
2	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション②
3	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション③
4	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション④
5	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション⑤
6	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション⑥
7	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション⑦
8	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション⑧
9	日本手話と日本語の対照分析:発表とディスカッション⑨
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	発表、レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、課題・レポート提出(40%)、発表内容(40%)
教科書(テキスト)	市田泰弘(2005)「手話の言語学1-12」『月刊言語』34(1-12)大修館書店
教員紹介	国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 感覚機能系障害研究部 任期付研究員、(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の社会			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	野口 岳史	履修分類	専門科目	科目分類	社会

●同科目において他授業あり

授業概要	「ろう文化」のろう文化宣言をもとに、学生自身が要点をまとめ発表する形で進める。
到達目標	書記日本語から要約し、日本手話で発表できる。
授業内容(予定)	
1	ろう文化宣言、デフ・コミュニティ、口話主義
2	トータル・コミュニケーション、メインストリーミング、人工内耳
3	バイリンガリズム、シムコム、日本手話のできない手話通訳者
4	ろう者と中途失聴者・難聴者、聴覚障害という用語の問題点
5	まとめ
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	リアクションペーパーの提出をもって出席とみなす。また、全員が必ず発表を行う。
成績評価基準の内容	出席・リアクションペーパー提出(50%)、発表(40%)、授業への参加態度(10%)
教科書(テキスト)	ろう文化(現代思想編集分編2000) *廃版のため、PDFファイルにて配布
教員紹介	手話通訳学科専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の社会			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	社会

●同科目において他授業あり

授業概要	手話を学び、ろう者等と関わりを持つための心構えや、異文化理解とコミュニケーションを通して、言語行動の違いがあることを学ぶ。 学生自身の体験などをもとに発表およびディスカッションを行う。
到達目標	ろう者・難聴者や聴者の言語行動の違いを理解し、行動ができるようにする。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション、自己紹介
2	手話を学ぶ者としての心構え、言語と人と社会
3	異文化理解とコミュニケーション、日本語話者と手話話者の違いを考える①
4	異文化理解とコミュニケーション、日本語話者と手話話者の違いを考える②
5	異文化理解とコミュニケーション、日本語話者と手話話者の違いを考える③
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート、発表、ディスカッション
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の社会			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	各分野ごとのゲスト講師	履修分類	専門科目	科目分類	社会

●同科目において他授業あり

授業概要	聴覚障害者の社会のうち、比較的特異な分野について、各分野ごとのゲスト講師を招いて学ぶ
到達目標	聴覚障害者の社会のなかでも比較的特異な分野に関する議論に参加できる
授業内容(予定)	
1,2	聴覚障害者の社会(精神障害①)
3,4	聴覚障害者の社会(精神障害②)
5,6	聴覚障害者の社会(ろう重複者①)
7,8	聴覚障害者の社会(ろう重複者②)
9,10	聴覚障害者の社会(盲ろう者①)
6	聴覚障害者の社会(盲ろう者②)
7	聴覚障害者の社会(ケースワーク①)
8	聴覚障害者の社会(ケースワーク②)
9	聴覚障害者の社会(司法①)
10	聴覚障害者の社会(司法②)
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、リアクションペーパー提出と内容(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	各分野の専門家

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の社会(ろう者と通訳)			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	60 時間	単位数	4 単位 ●
担当教員	ろう者	履修分類	専門科目	科目分類	社会

●同科目において他授業あり

授業概要	ろう者をゲストとして招いて、さまざまな形態の手話通訳の実情について学ぶ。
到達目標	さまざまな形態の手話通訳の実情をふまえた議論に参加できる
授業内容(予定)	
1	事例検討①
2	事例検討②
3	事例検討③
4	事例検討④
5	事例検討⑤
6	事例検討⑥
7	事例検討⑦
8	事例検討⑧
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	ディスカッション、レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、ディスカッション(40%)、リアクションペーパー(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	さまざまな分野で活躍するろう者

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	通訳理論(翻訳理論)			授業形態	講義
履修学年	1-2年生合同 (36期・37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	深井裕美子	履修分類	専門科目	科目分類	通訳

授業概要	通訳理論について学ぶ
到達目標	通訳理論にもとづいた議論に参加できる
授業内容(予定)	
1	通訳とはなにか・翻訳とはなにか
2	通訳・翻訳と「絵」
3	通訳・翻訳に必要な知識
4	通訳・翻訳の目的と準備
5	－
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	株式会社ネスト代表取締役、日本映像翻訳アカデミー講師、(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話通訳論			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	通訳

授業概要	手話通訳者として必要な知識として、手話通訳のあり方を学ぶ。
到達目標	手話通訳の役割、言語・文化・コミュニケーション、通訳理論、手話通訳の実際を理解する。 事例検討とロールプレイを通じて、手話通訳者としての観察力や行動力の必要性を理解する。
授業内容(予定)	
1	手話通訳技能認定試験(手話通訳士試験)、手話通訳者全国統一試験、全国手話検定試験等の説明
2	手話通訳のあり方(手話通訳の役割)
3	手話通訳のあり方(手話通訳の役割)
4	手話通訳のあり方(言語・文化・コミュニケーション)
5	手話通訳のあり方(言語・文化・コミュニケーション)
6	手話通訳のあり方(通訳理論)
7	手話通訳のあり方(通訳理論)
8	手話通訳のあり方(手話通訳者の実際)
9	手話通訳のあり方(手話通訳者の実際・手話通訳の業務・派遣コーディネート業務)
10	手話通訳のあり方(手話通訳者としての一般教養)
11	事例検討とロールプレイ①(講演場面)
12	事例検討とロールプレイ②(会議場面)
13	事例検討とロールプレイ③(面接場面)
14	事例検討とロールプレイ④(医療場面)
15	事例検討とロールプレイ⑤(医療場面)・(その他の場面)
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	『八訂 手話通訳技能認定試験傾向と対策』(中央法規出版)、『手話通訳を学ぶ人の「手話通訳学」入門』(クリエイツかもがわ)、『マンガで読む手話通訳事例集』(新日本プロセス)
教員紹介	手話通訳学科専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話通訳論			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	通訳

●同科目において他授業あり

授業概要	手話通訳技能認定試験対策 模擬通訳や手話通訳実習の準備の仕方を学ぶ 模擬通訳や手話通訳実習における事例検討をとおして手話通訳論を学ぶ
到達目標	模擬通訳や手話通訳実習の準備、事例検討、総括ができるようになる
授業内容(予定)	
1	講演会場面の手話通訳(ディスカッション)
2	電話通訳場面の手話通訳(ディスカッション)
3	会議通訳場面の手話通訳(ディスカッション)
4	遠隔手話通訳場面の手話通訳(ディスカッション)
5	医療通訳場面の手話通訳(ディスカッション)
6	テレビ放送場面の手話通訳(ディスカッション)
7	会見通訳場面の手話通訳(ディスカッション)
8	電話リレーサービスの手話通訳(ディスカッション)
9	政見放送場面の手話通訳(ディスカッション)
10	司法場面の手話通訳(ディスカッション)
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題提出(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話通訳論			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	卒業生	履修分類	専門科目	科目分類	通訳

●同科目において他授業あり

授業概要	手話通訳論の一環で、卒業生をゲストとして招いて、さまざまな形態の手話通訳の実情について学ぶ。
到達目標	さまざまな形態の手話通訳の実情をふまえた議論に参加できる
授業内容(予定)	
1	聴覚障害者情報提供施設職員として
2	社会福祉協議会職員として
3	自治体職員として
4	フリー通訳として
5	民間企業社員として
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	質疑、レポート
成績評価基準の内容	授業への出席(50%)、リアクションペーパー(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	さまざまな分野で活躍する卒業生

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の教育			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	20 時間	単位数	1 単位
担当教員	加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	知識

授業概要	聴覚障害児の教育に関して、概論から実践まで学び、発表とディスカッションを行う
到達目標	1. 歴史と制度について基本的な知識を得る 2. ろう学校における教育実践の実際を知る 3. バイリンガル教育の意義と課題を理解する 4. ろう教育の実情を理解し、手話通訳者の視点から考察する
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	日本の教育制度とろう学校の教育課程
3	ろう学校の自立活動
4	ろう学校における言語指導
5	ろう学校の現場と実践(小学部での実践)
6	ろう学校の現場と実践(小学部での実践)②
7	バイリンガル教育について
8	バイリンガル教育について②
9	手話アドバイザーの役割
10	まとめ・発表・振り返り
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	ディスカッション、レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、ディスカッション(30%)、リアクションペーパー(30%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者のリハビリテーション			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	成田 あゆみ	履修分類	専門科目	科目分類	知識

授業概要	手話通訳に必要な聴覚障害のリハビリテーションに関する基本的な知識を学ぶ
到達目標	手話通訳士試験学科試験の合格
授業内容(予定)	
1	疑似難聴体験
2	聴覚の意義、難聴の影響
3	聴力検査をしてみよう、耳の構造と聞こえのしくみ
4	難聴の種類と原因
5	補聴器と人工内耳
6	医学の新しい流れ(新しい人工聴覚機器)
7	成人人工内耳臨床の実際
8	超早期からのハビリテーション
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(25%)、リアクションペーパー提出と内容(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	当学院 言語聴覚学科 専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の福祉			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	知識

●同科目において他授業あり

授業概要	イマージョンプログラムのひとつとして実施する 聴覚障害者の福祉に対する理解を深める
到達目標	1. 各テーマについて調べ、整理し、まとめた内容を手話で発表する。 2. 発表を通して、情報をわかりやすく構成し、ろう者に伝える力を養う。 3. 聴覚障害者の福祉に関する最低限の知識を身につける。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	発表①
3	発表②ー1
4	発表②ー2
5	発表②ー3
6	発表③ー1
7	発表③ー2
8	発表③ー3
9	発表④
10	上記タイトルのうち1つ修正のうえ、再発表
11	まとめ・振り返り
12	ー
13	ー
14	ー
15	ー
成績評価の方法	資料作成、発表、レポート
成績評価基準の内容	手話による発表(25%)、スライド資料(50%)、リアクションペーパー(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者の福祉			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	全日本ろうあ連盟	履修分類	専門科目	科目分類	知識

●同科目において他授業あり

授業概要	ろうあ団体から講師を招き、ろうあ運動の過去・現在・未来について学ぶ。
到達目標	ろうあ団体の歴史、現状、展望にもとづいた議論に参加できる
授業内容(予定)	
1	ろうあ団体の歴史と組織
2	ろうあ運動のこれまで①:民法改正、運転免許
3	ろうあ運動のこれまで②:手話通訳制度化、手話言語条例、手話言語法
4	差別問題への対応:手話通訳派遣拒否問題等、東日本大震災から学んだこと、旧優生保護法下の強制不妊手術等问题ほか
5	—
6	—
7	—
8	—
9	—
10	—
11	—
12	—
13	—
14	—
15	—
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、リアクションペーパー(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	ろうあ団体からの派遣講師

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	聴覚障害者のソーシャルワーク			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	10 時間	単位数	1 単位
担当教員	原 順子 舘脇 千春	履修分類	専門科目	科目分類	知識

授業概要	聴覚障害者のソーシャルワークについて、その理論と実際を学ぶ。
到達目標	聴覚障害者のソーシャルワークに関する議論に参加できる
授業内容(予定)	
1	聴覚障害ソーシャルワークの枠組み
2	聴覚障害ソーシャルワーカーのコンピテンス
3	ワークショップ:クライアントの理解、自己覚知、面接技法など、文化モデルアプローチの重要性
4	聴覚障害ソーシャルワークの実際(日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会)
5	聴覚障害ソーシャルワークの実際(日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会)
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、レポート(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	元四天王寺大学 人文社会学部 人間福祉学科 教授、(聴者)、博士(社会学・関西大学) 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会会長

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	特別講義			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	10 時間	単位数	1 単位
担当教員	ゲスト	履修分類	専門科目	科目分類	特別講義

授業概要	さまざまな分野で活躍している人をゲストとして招いて、聴覚障害者を取り巻く社会について学ぶ。
到達目標	聴覚障害者を取り巻く社会についての議論に参加できる。
授業内容(予定)	
1	LGBTQ+①
2	LGBTQ+②
3	日本財団・電話リレーサービス①
4	日本財団・電話リレーサービス②
5	1-2年合同①
6	1-2年合同②
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、レポート(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	さまざまな分野で活躍するろう者及び聴者

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	特別講義			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	10 時間	単位数	1 単位
担当教員	ゲスト	履修分類	専門科目	科目分類	特別講義

授業概要	さまざまな分野で活躍している人をゲストとして招いて、聴覚障害者を取り巻く社会について学ぶ。
到達目標	聴覚障害者を取り巻く社会についての議論に参加できる。
授業内容(予定)	
1	インフォメーションギャップバスター①
2	インフォメーションギャップバスター②
3	1-2年合同①
4	1-2年合同②
5	－
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	レポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、レポート(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	さまざまな分野で活躍するろう者及び聴者

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	卒業研究			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	90 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	野呂 一 野口 岳史	履修分類	専門科目	科目分類	卒業研究

●同科目において他授業あり

授業概要	2年生が実施する卒業研究について、発表会の進行及び資料の作成、お知らせ発信などのプロセスを学ぶ。
到達目標	卒業研究発表会が滞りなく進行できるよう支援できること。 その経験を通して、自身の卒業研究発表に対する認識を涵養すること。
授業内容(予定)	
1	卒研構想発表会1
2	卒研構想発表会2
3	卒業研究発表会(内部)(1)
4	卒業研究発表会(内部)(2)
5	卒業研究発表会(内部)(3)
6	卒業研究発表会(内部)(4)
7	リハーサル(1)
8	リハーサル(2)
9	卒業研究発表会(外部)(1)
10	卒業研究発表会(外部)(2)
11	卒業研究発表会(外部)(3)
12	卒業研究発表会(外部)(4)
13	反省会
14	オリエンテーション
15	研究とは、課題演習について
16	先行研究について
17	フィールドワークとは
18	研究方法について討論
成績評価の方法	授業及び発表会支援作業の実績。発表会の進行方法の検討及び資料作成。SNS等の発信。
成績評価基準の内容	授業の出席及び諸作業に対する参加態度。(100%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	横浜国立大学 元非常勤講師(ろう者) 手話通訳学科 専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	卒業研究			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	90 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	野呂 一 野口 岳史	履修分類	専門科目	科目分類	卒業研究

●同科目において他授業あり

授業概要	手話に関連するテーマについて研究を行う。調査・分析・論文作成・発表のプロセスを学ぶ。
到達目標	卒業研究発表会で発表し、卒業研究論文を提出する。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	研究とは、課題演習について
3	先行研究について
4	フィールドワークとは
5	課題演習の発表1
6	課題演習の発表2
7	卒業研究構想発表会の内容検討1
8	卒業研究構想発表会の内容検討2
9	卒研構想発表会1
10	卒研構想発表会2
11	研究テーマの確定
12	研究方法の検討、対象データの選定(1)
13	研究方法の検討、対象データの選定(2)
14	研究方法の検討、対象データの選定(3)
15	データの収集(1)
16	データの収集(2)
17	データの収集(3)
18	データの整理(1)
19	データの整理(2)
20	データの整理(3)
21	データの分析・データの追加収集(1)
22	データの分析・データの追加収集(2)
23	データの分析・仮説の検証及び考察(1)
24	データの分析・仮説の検証及び考察(2)
25	データの分析・仮説の検証及び考察(3)
26	卒業研究発表会(内部)(1)
27	卒業研究発表会(内部)(2)
28	卒業研究発表会(内部)(3)
29	卒業研究発表会(内部)(4)
30	リハーサル(1)
31	リハーサル(2)
32	卒業研究発表会(外部)(1)
33	卒業研究発表会(外部)(2)
34	卒業研究発表会(外部)(3)
35	卒業研究発表会(外部)(4)
36	反省会
成績評価の方法	授業及び研究作業の実績。卒業研究構想及び卒業研究発表の資料作成及び発表会での発表。卒業研究論文の提出。
成績評価基準の内容	授業の出席及び参加態度(25%)、発表会の内容(50%)、課題・レポート・論文等の提出(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	横浜国立大学 元非常勤講師(ろう者) 手話通訳学科 専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	施設見学			授業形態	実習
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	1 単位
担当教員	野口岳史 川口千佳	履修分類	専門科目	科目分類	見学・実習

授業概要	聴覚障害者や手話通訳に関する施設や通訳現場を見学し、聴覚障害者を取りまく社会状況や、意思疎通支援事業、聴覚障害者福祉関連事業、聴覚障害者団体等に関して学ぶ。見学後は報告会を実施し、見学で学んだことをクラスメイトと協力し合いまとめ、発表する力を養う。また、個人の振り返りとしてレポートを作成する。
到達目標	聴覚障害者や手話通訳に関する状況などをそれぞれの現場から直接学び、聴覚障害者を取りまく社会状況や、意思疎通支援事業、聴覚障害者福祉関連事業、聴覚障害者団体等に関する理解を深める。
授業内容(予定)	
1	ガイダンス 夏期休暇中の施設見学と報告会(準備・当日)について
2	施設見学(夏期休暇中)
3	通訳見学(夏期休暇中)
4	夏期施設見学・通訳見学の振り返りと報告会準備
5	夏期施設見学・通訳見学報告会①
6	夏期施設見学・通訳見学報告会②
7	夏期施設見学・通訳見学報告会 振り返り(反省会)
8	ガイダンス 冬期施設見学と報告会(準備・当日)について
9	施設見学①
10	施設見学②
11	施設見学③
12	施設見学④
13	施設見学⑤
14	冬期施設見学の振り返りと報告会準備
15	冬期施設見学報告会①
16	冬期施設見学報告会②
17	冬期施設見学・通訳見学報告会 振り返り(反省会)
成績評価の方法	見学先決定から実施までの参加態度、報告会の準備から発表までの参加態度・報告会の内容、見学後レポートの内容
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、報告会(30%)、レポート(20%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官 手話通訳学科専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	施設実習			授業形態	実習
履修学年	2年生(36期)	時間数	20 時間	単位数	1 単位
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	見学・実習

授業概要	手話通訳派遣コーディネート実務を経験する。
到達目標	コーディネート業務と担当する者の役割を理解し、通訳者としての視点を養う。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	コーディネート実務1
3	コーディネート実務2
4	コーディネート実務3
5	コーディネート実務4
6	コーディネート実務5
7	コーディネート実務6
8	コーディネート実務7
9	コーディネート実務8
10	コーディネート実務9
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業等への出席態度、発表、レポート
成績評価基準の内容	実習への参加態度(50%)、発表(25%)、レポート(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	交流実習			授業形態	実習
履修学年	1年生(37期)	時間数	80 時間	単位数	2 単位
担当教員	江原 こう平・野口 岳史 ・加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	見学・実習

授業概要	全国のろう者が集う集会に参加し、大会要員として運営を手伝う。
到達目標	ろう者との協働を通して、手話表現力やコミュニケーション能力を高め、相互理解を深める。
授業内容(予定)	
1	交流実習について
2	全国ろう女性集会1
3	全国ろう女性集会2
4	全国ろう女性集会3
5	全国ろう女性集会4
6	全国ろう女性集会5
7	全国ろう女性集会6
8	全国ろう女性集会7
9	全国ろう女性集会8
10	全国ろう女性集会9
11	全国ろう女性集会10
12	全国ろう女性集会11
13	全国ろう女性集会12
14	振り返り・整理・準備
15	振り返り・整理・準備
16	報告会1
17	報告会2
18	2年生報告会1
19	2年生報告会2
20	反省会
成績評価の方法	発表、レポート
成績評価基準の内容	実習への参加態度(50%)、発表(25%)、レポート(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(聴者)、手話通訳学科専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	交流実習			授業形態	実習
履修学年	2年生(36期)	時間数	60 時間	単位数	2 単位
担当教員	江原 こう平・野口 岳史 ・加藤 小夜里	履修分類	専門科目	科目分類	見学・実習

授業概要	全国のろう者が集う集会に参加し、大会要員として運営を手伝う。
到達目標	ろう者との協働を通して、手話表現力やコミュニケーション能力を高め、相互理解を深める。
授業内容(予定)	
1	交流実習について
2	全国ろうあ者スポーツ大会1
3	全国ろうあ者スポーツ大会2
4	全国ろうあ者スポーツ大会3
5	全国ろうあ者スポーツ大会4
6	全国ろうあ者スポーツ大会5
7	全国ろうあ者スポーツ大会6
8	全国ろうあ者スポーツ大会7
9	全国ろうあ者スポーツ大会8
10	全国ろうあ者スポーツ大会9
11	全国ろうあ者スポーツ大会10
12	全国ろうあ者スポーツ大会11
13	全国ろうあ者スポーツ大会12
14	振り返り・整理・準備
15	振り返り・整理・準備
16	報告会1
17	報告会2
18	1年生報告会1
19	1年生報告会2
20	反省会
成績評価の方法	発表、レポート
成績評価基準の内容	実習への参加態度(50%)、発表(25%)、レポート(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(聴者)、手話通訳学科専任教官(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話通訳実習			授業形態	実習
履修学年	1年生(37期)	時間数	16 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	江原こう平	履修分類	専門科目	科目分類	見学・実習

●同科目において他授業あり

授業概要	手話通訳関連の現場で、専任手話通訳者等の指導を受けながら、手話通訳および聴覚障害者福祉施設等に関わる業務の実習を行い、体験を通して、手話通訳技能を高めるとともに、意思疎通支援事業、聴覚障害者福祉関連事業、聴覚障害者団体等に関する知識を習得させる。
到達目標	1年生においては2年生の報告会の各報告を聞き、実習の概要を理解し、次年度の実習希望先をイメージすると共に、報告会の運営方法について理解する。
授業内容(予定)	
1	夏期手話通訳実習報告会①
2	夏期手話通訳実習報告会②
3	夏期手話通訳実習報告会③
4	夏期手話通訳実習報告会④
5	冬期手話通訳実習報告会①
6	冬期手話通訳実習報告会②
7	冬期手話通訳実習報告会③
8	冬期手話通訳実習報告会④
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	参加態度、リアクションペーパーの内容
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、リアクションペーパーの内容(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	手話通訳実習			授業形態	実習
履修学年	2年生(36期)	時間数	164 時間	単位数	6 単位 ●
担当教員	江原こう平	履修分類	専門科目	科目分類	見学・実習

授業概要	手話通訳関連の現場で、専任手話通訳者等の指導を受けながら、手話通訳および聴覚障害者福祉施設等に関わる業務の実習を行い、体験を通して、手話通訳技能を高めるとともに、意思疎通支援事業、聴覚障害者福祉関連事業、聴覚障害者団体等に関する知識を習得させる。
到達目標	希望する実習先を決定し、夏期5日・冬期15日の通訳実習を行い実習記録・レポート・評価表を提出する。実習終了後には実習の振り返りや報告会での報告を行う。
授業内容(予定)	
1	ガイダンス 夏期手話通訳実習説明
2	夏期手話通訳実習先選定
3	夏期手話通訳実習準備
4～23	夏期手話通訳実習(5日間・1日4コマ×5日＝20コマ)
24～26	夏期手話通訳実習振り返り・報告会準備①・②・③
27～30	夏期手話通訳実習報告会①・②・③・④
31	夏期手話通訳実習報告会 振り返り(反省会)・ガイダンス 冬期手話通訳実習説明
32	冬期手話通訳実習先選定
33	冬期手話通訳実習準備
34～93	冬期手話通訳実習(15日間・1日4コマ×15日＝60コマ)
94～97	冬期手話通訳実習振り返り・報告会準備①・②・③・④
98～101	冬期手話通訳実習報告会①・②・③・④
102	冬期手話通訳実習報告会 振り返り(反省会)
－	
－	
成績評価の方法	参加態度、レポート、報告会(資料の完成度・報告内容)
成績評価基準の内容	授業への参加態度(25%)、レポート(50%)、報告会(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官